

第8回 高梁市地域防災力向上委員会 発言要旨（主なもの）

日時：令和5年 9月12日（火）

15時00分～17時00分

場所：高梁市役所本庁 3階大会議室1

1. 開会

2. あいさつ

（三村委員長）

この向上委員会ですが、充実した議論を重ねてまいりました。皆様方のお力と市の献身的なご活動によって、ようやくフィニッシュが見えてきております。いい形で市民の皆様方に防災力向上の具体的な活動マニュアルをお示しできるように、最後のご議論を尽くしてまいりたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

3. 議題【各項目についてそれぞれ事務局から説明後、意見交換】

（1）自主防災組織設立・活動マニュアル（案）への意見と内容修正について

<意見交換>

（中村委員）

高梁市には、「防災士・自主防災組織等連絡会」があつて、みなさんいろいろな訓練をされていることがわかるが、もう少し自主防災組織全体で寄り集まって研究できるようなものがあればより良いなと思っております。

（加藤委員）

平常時の活動で消火訓練や避難訓練を行う際には、ぜひ消防団に協力を求めて一緒にやっていただきたいと思っております。自主防災組織にお願いしたいことは、特に連絡網の作成や管理、要支援者に関する事です。平常時の訓練はとても良いことですが、災害時には二次災害が怖いので、ある程度は市消防や消防団に任せていただければと思っております。

（内田委員）

先日も小学校での訓練の際に平日にもかかわらず5、6人の地元の消防団の方に参加していただきました。このような訓練にも地元として積極的に関わっていただいたり、市消防が先日「救急フェア」を開催した際にも、非常食のおにぎりに興味をもってくださいたりと、防災に関心のある方が多い町だなと感じていました。市消防と消防団とで連携して、今後も継続していきたいと考えております。

（吉原委員）

先日、地元町内会で自主防災組織を設立しました。その際、「何をすればいいのかわからない」という声が一番多かったので、このマニュアルには平常時の活動の例などが書かれて

いて今から立ち上げようとする団体にとっては非常に良いものだと思います。ただ、すでに様々な活動をされている自主防災組織や市や消防などに寄り添っていただきながら進めていくという形が取れば、非常にやりやすいものになるのではと思います。

青年会議所では、マイ・タイムライン講習会をさせていただいていますが、市全体に行き渡っているとは思っておらず、今後は積極的に自主防災組織に入り込んで地域の方とコミュニケーションをとりながらやっていきたいと思っております。

(蜂谷委員)

修正後、全体的に文量が増えた印象があり、内容としては必要なことですが、もう少しグラフィカルにわかりやすい表記にすることも大切かなと思いました。3ページの「設立の流れ」のこの図が一番大事だと思うので、この部分をもう少し充実させると、「自主防災組織作ろうか、どうしようか」となった時にわかりやすさが出るかなと思いました。吉備ケーブルテレビとしては、このマニュアルを市民の方に周知していくという点で、一緒にできればと思っております。

(角銅委員)

災害の記憶はやはり徐々に風化していく。そして、実際に被害を受けられた方とそうでない方とでは温度差があり、その温度差はまだまだ広がっていくと思っています。地域の希薄化も進んでいるので、風化させないような仕組みを作っていくといけないと思います。つらい経験なのでなかなか難しいとは思いますが、被災経験をお話いただける方の生の声を我々が認識して、地域の方々へこんなことがあったということを知っていただくことも大切ではないかと思っています。

(藤井委員)

風化させないためにも子供の時からの教育というのは効果的だと思っています。先ほどもありましたが文字があまりに多すぎて、見せ方というのを考えていかないと手に取るのも難しいかなと思います。子供向けのものを作るという視点も必要だと思います。なぜ自主防災組織が必要なのか、設立後はどう活用していくのかを地域でしっかり話し合ったり、訓練等をした後も振り返りなどの話し合いができることが一番大切だなと感じました。

(内田委員)

私たちは、ファミリー層をターゲットにした訓練に力を入れておりまして、このマニュアルにももし可能であればそういった年代の方の写真等を使用していただければ、見た方もちょっと参加してみようかなと考えていただけるのかなと思います。

(神田委員)

自主防災組織のリーダーの方が見るマニュアルということだと、とても素晴らしい内容のものできていると思います。さらに、市民版を作っていくべきいけないというところでは、あとは、災害時避難行動要支援者名簿の作成をきちんと行い、個別避難計画の策定を急ぐ必要があると考えています。計画作成のためのマニュアルの作成や、関係する消防団や民生委員さんに関わっていただくための要請を市がしなければならぬ。このマニユア

ルにも個別避難計画作成に係るワードは出てきていますので、このマニュアル作成で終わりだと思わないようにしていただきたいと思います。

(事務局)

災害時避難行動要支援者や個別避難計画につきまして、要支援者名簿についてはシステム化しており、福祉部局・介護部局・防災部局で連携をして、定期的に名簿の更新も行っております。この名簿は当然、民生委員さんなどに事前にお示ししているところです。個別避難計画については、なかなか理解が得られにくく、福祉部局等とプロジェクトチームを立ち上げてその中で少しずつですが進めていっているところです。

(横林委員) 代理 石村

民生委員と福祉委員が「災害時一人も見逃さない運動」という活動をしているので、個別避難計画作成にも関わって、連携していかないといけないなと考えておりました。社会福祉協議会は、災害ボランティアセンターを設置することになるので、災害ボランティア養成講座や講演会などを行ってきましたが、子どもや親子に防災について考えてほしいと思い、今年初めてファミリー層をターゲットに「防災まつり」を開催しました。今後も地域づくりや防災について考えていく体制の整備をしていかないといけないと感じております。

(三村委員)

市内では公民館が避難所になることがないので、防災のために何かをすることは特にできていませんが、公民館としては、人と人とのつながりが生まれるような街を作っていくことが防災にもつながると考えております。マニュアルは非常にいいものができていますが、コロナの影響で総会などができていない町内も多く、そういった地域ですぐに自主防災組織の設立はなかなか難しいと思うので、まずは人と人とのつながりを作るようなことからやらないといけないと感じております。外国籍の人たちに対する説明も大切であると思います。

(西田委員)

自主防災組織を立ち上げるためという目的に沿ったマニュアルになっていて、非常によくできていると思います。個別避難計画作成については、県としても今後県民局ごとに協議会等を立ち上げる等、防災部局と福祉部局の連携というものをもう少ししっかり形をとっていかないといけないという議論になっていくと思っております。期限があることで、できることからやっていきたいと思っております。

(菅野委員)

自主防災組織の内容が生き生きとわかる、气象台にとっても非常に参考になるマニュアルをなっていると思っております。气象台も自主防災組織のリーダーさんを対象とした講習会等を行っておりますので、機会がありましたらぜひお声がけください。その際には、単に气象台の職員が説明をするだけで終わらず、ぜひご意見をいただき、議論や雑談をしていただいく、そんな講習会にしたいと思っております。要支援者や外国籍の方への対応については、气象台としても今年度から力を入れようとしているところなのですが、どうしようかと手

探りの状況でございます。

(末永委員)

6 ページの役割分担の一例について、例えば救出・救助や消火活動など消防団の活動と重複するような内容もあるので、自主防災組織としての活動をよりイメージしやすくするには、もっと活動内容を明確にしたほうがいいと思います。自主防災組織の活動は地域の規模や実情で大きく変わってくるので、地域の皆さんが自助を行えるように気象情報や河川情報の入手方法を知るための講習会や、高齢者等要支援者の避難状況の把握などに特化したほうがいいのではと思いました。自主防災組織が円熟化していけば、活動内容も増やしていけばいいと思いますが、それまでは最小限の勉強会や訓練から始めるのもいいと思います。少なくとも、最下部辺りには 12 ページのような地域の実情に合わせた活動を行いたいという注意書きがあると誤解が起こらないと思います。このマニュアルを見たときに、自分たちで避難所を開設しないといけないのか、などあまり重い印象にならないようにしたほうがいいと思います。

(中村委員)

初期消火や救出・救助活動について、自主防災会には消防団の OB がたくさんいて、共助のような大きなものではなく、隣近所で助け合っている自助だと思って自主防災会の活動をしています。地域にため池が 3 つあるので、大雨になるといつ決壊して土砂災害にならないかと気が気ではない思いをしながら 1 日、1 時間を過ごしていますので、自主防災組織を作る際には会長・副会長のフォローをしていただけたら、うまく運営ができるのかなと思います。

(加藤委員)

地域によっては、消防団 OB がたくさんおられたり、分団長以上の消防団員には防災士の資格取得も推進しております。現役時代には消防団活動をしっかりしていただいて、引退した後は地区で防災士として活躍していただければと思っています。

(氏原副委員長)

今後多様な方が読むことになると、文字が多くて読みにくい印象があるので、所々ビジュアルで整理したり、挿絵を使ったりしてもう少し見やすくなる工夫をしていただくよう最後の取りまとめの際に留意いただければと思います。あとは、1 ページの下部の図の中の「地域防災力」という言葉の位置が、これだと自助・共助にだけかかっているように見取れます。この委員会では、自助・共助がメインだけれども、公助を含めた 3 つで地域防災力という定義だったと思うので、公助も含めて示していただいたほうがいいと思いました。

(三村委員長)

活字でぎゅっと詰まっているので、上級者向けということでリーダーシップをとっていただく方にどんどん使っていただきながら、今後、全市民向けにわかりやすいものを作るときには、専門業者に発注して挿絵やレイアウトを工夫して文字を減らすということや、あとは、今はもう動画の時代ですね。そんなことも今後は考えていただきたいと思います。

(氏原副委員長)

事務局に確認ですが、このマニュアルは具体的にこういったタイミングで配布されるものなのですか。あるいは、こういった場所に置かれるものなのですか。

(事務局)

これから自主防災組織を作っていこうかという団体に配布して使っていただくのが1番だと思っております。ホームページにも掲載して全市民が見れる形にもしていきたいと思っていて、すでに活動されている自主防災組織にもこのマニュアルを活用していただきたいと思っております。

(角銅委員)

防災復興推進課ができるより前から、民生委員では「一人も見逃さない運動」を展開しております。民生委員は要支援者の名簿を持っています。今自主防災組織に民生委員さんが実際に入っているのかを教えてくださいたいです。

(事務局)

民生委員さん等も入れ替わりがありますから、お声がけいただきましたら会議などにお伺いして、民生委員さんが作られている災害時一人も見逃さない運動の名簿と災害時避難行動要支援者名簿との関係性等のご説明をさせていただいております。また、高梁市においては、一人も見逃さない運動で集めた情報も災害時避難行動要支援者システムの中に入っておりますが、これを災害時避難行動要支援者名簿に載せていいですかと同意をとる段階になると、それには同意はできないという回答があり、二つの名簿の内容が一致しないということが市としてもジレンマになっています。

(角銅委員)

民生委員も担い手不足なので、3年ごとの任期更新の際には非常に苦慮しています。私自身の被災経験からも、ぜひ自主防災組織に民生委員をいれていただきたいと思います。

(三村委員長)

では皆さん、最終校正は事務局にお任せすることを前提に、「自主防災組織設立・活動マニュアル」この案でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(三村委員長)

全会一致でこの案を成案とさせていただきたいと思います。

(2) 地区防災計画（仁賀地区、成美地区）の運用状況について

<意見交換>

(氏原副委員長)

仁賀地区の地区防災計画の見直しについてのところにある、高梁市統一のチェックシート様式の作成について検討されましたでしょうか。

(事務局)

まだ作成には至ってないですが、訓練時に電話等で避難状況や被災状況等の報告を自主防災組織から市へいただいているので、その際に連絡担当の方が報告しやすいような様式を統一のものとして定めていきたいと考えております。

(三村委員長)

すべての整理は難しいとは思いますが、公助から自助・共助へ受け渡す時の各組織が持っている情報伝達網のようなものがうまく統合されていくといいなと思います。社員寮がある地域などは、大きな企業さんへは、地域に協力してくださいとお願いしてもいいと思います。

(3) 今後のスケジュールについて

<意見交換>

(三村委員長)

今後の進め方についていかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(委員)

異議なし

(4) その他

事務局より、10月29日(日)に予定している自主防災組織モデル地区の現地指導等の内容を説明。

(三村委員長)

高梁市で安心安全に暮らしていくためには、こういったマニュアルが何とか市民の皆様方の日常になり、防災において一番大切な命を守り抜く。そのために、みんなが助け合うという議論を進めてきたものがマニュアルという形で結実したといえると思います。このマニュアルがスタートになり、この委員会で議論いただいた話を糧にしながら、かけがえのない命を守り、住んでいる皆さんが幸福を感じて生きていける社会を目指していくということが大切なのではないかなと思います。

5. 閉会

(氏原副委員長)

前回の委員会で示されたマニュアル案について、皆様からたくさんのご意見をいただき、事務局でしっかり修正していただいて、素晴らしいものになったのではないかと思います。次回が最後の委員会になると思いますが、この委員会は高梁市の地域防災力向上のための委員会だと理解しております。この委員会のメンバーで力を尽くしていきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。